

地域による学校支援の充実

		(%)	
質 問		奈良県	全国
地域の行事に参加していると回答した子どもの割合	小学校	56.0(38)	61.6
	中学校	27.7(43)	34.3
近所の人に会ったときはあいさつをしていると回答した子どもの割合	小学校	86.6(45)	89.9
	中学校	82.7(36)	83.9
学習塾に通っていると回答した子どもの割合	小学校	56.2(3)	47.2
	中学校	74.3(2)	62.9

平成22年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

全国平均に比べて、「地域の行事に参加している」「近所の人にあいさつをしている」子どもの割合が低く、「学習塾に通っている」子どもの割合は高い。

学校と地域の連携促進

学校・地域連携

放課後における子どもたちの活動への支援を軸に、学校内外での様々な活動（放課後等の学習指導・居場所の確保、授業等の学習補助、部活動の指導補助、環境整備、登下校の見守り等）



について、地域のボランティアの参画を得て、学校・地域が連携する取組を全県的に展開します。

地域のスポーツ人材の派遣

運動部活動の充実と活性化を図るため、スポーツに関する専門的な技術を有し、適切な指導力を備えた地域のスポーツ人材を学校へ派遣しています。

※平成22年度は、中学校36校へ36人を派遣、高校18校へ19人を派遣



家庭と学校の協働の推進

見直そう！家庭と学校協働プロジェクト

モデル校では、家庭・地域と学校が協働して、ノーテレビデーや家族で一緒に読書をする「家読（うちどく）」、地域ぐるみのあいさつ運動、地域行事への参加の呼びかけなどの取組を進め、子どもたちの学習意欲や体力、規範意識・社会性等の向上を図っています。

※県内小学校5校のモデル校で実施

地域の教育力再生の取組

地域の教育力を高めるための研修の充実

地域の教育力をより一層高めるため、市町村職員、地域コーディネーター、ボランティア団体、教職員、PTA役員などを対象に「地域教育力向上実践講座」を実施します。

奈良県教育の日

毎年11月1日を奈良県教育の日、その日を含む1週間を奈良県教育週間として、奈良県の教育について県民の皆さんとともに考え確かめ合う機会としています。各学校・園、教育関連団体、市町村教育委員会及び県教育委員会が授業公開やシンポジウムなどの取組を行っています。

※平成22年度は、「奈良県教育の日」関連行事に延べ480,399人の保護者や地域の方々が参加

文化財の保存と活用の推進

平成21年より11月3日を「奈良県文化財の日」として、文化財の保存やその活用をより充実させています。県内の子どもたちが、ふるさと奈良の文化財にふれ、奈良のすばらしさを実感する機会を提供します。

子ども向けパンフレットの作成・活用

橿原考古学研究所附属博物館では、春・秋の特別展や速報展などの展覧会ごとに子ども向けパンフレットを作成し、配布しています。

パンフレットでは、せんとかんや当研究所マスコットのイワミンが展示内容をわかりやすく紹介しています。



橿原考古学研究所附属博物館における体験学習イベントの開催

体験学習ボランティア「考古ものづくりサポート“かしはら”」

を組織し、小学生を中心とした体験学習の充実に取り組んでいます。平成22年度は「古代琴づくりと演奏会」や「彫金体験」、大型商業施設での「出前博物館」などを開催しました。

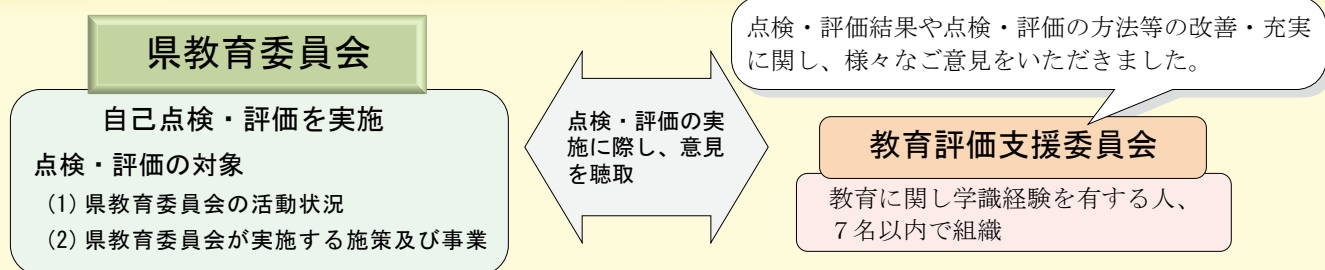


※平成22年度は、体験学習イベントに延べ約300人が参加

県教育委員会の点検・評価を進めています

効果的な教育行政の推進及び改善・充実に資することを目的として、奈良県教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況（平成21年度対象）の点検・評価を行いました。

その結果を報告書にまとめ、平成22年11月、県議会に提出しました。



県教育委員会の活動状況

○平成21年度定例教育委員会（19回開催）

- ・「委員会規則その他特に重要な規程の制定改廃」等34件を議決
- ・「教育長の専決による事項」等41件の報告を受け了承

○県内6校、県外3校2施設を視察するとともに、各校で意見交換を実施し、教育の現状や課題を把握

施策の点検・評価

教育委員会が平成21年度に実施した施策及び事業を17施策に分類し、それぞれを評価単位として、点検・評価を実施しました。

施策分野	施策名（評価単位）
学校における学習意欲、体力、規範意識の向上	確かな学力の育成
	豊かな人間性の育成
	体力の向上
	問題行動等への対応
子どもの家庭における生活習慣等の改善	キャリア教育の充実
	幼児教育の推進
	家庭教育の充実
地域ぐるみの活動と地域教育力の強化	地域による学校支援の充実
	地域ぐるみの子育て
	社会教育の充実
	私立学校との連携
学校教育の基盤整備等	特別支援教育の推進
	へき地教育の充実
	学校及び市町村教委への支援
	教員の資質向上
	教育環境の整備
文化財の保存と活用	文化財の保存と活用の推進

施策ごとに、施策評価シートを作成し、基本目標、現状、現状分析、取組成果の評価、次年度に向けた取組方針を明記しました。

教育評価支援委員からの意見（抜粋）

教育委員会の活動状況について

義務教育段階の教育は、市町村（設置者）の取組が基本だが、県と市町村が一体となった取組が大事。県立学校だけではなく義務教育学校を視察することも大切と考える。

施策の点検・評価について

1 学校における学習意欲、体力、規範意識の向上

学習意欲の向上を図るため、教員研修、研究調査をテーマにしていると聞いているが、平成23年度の評価では、具体的にどう進んでいるのかの指標も望まれる。体力の向上を施策で行うより、体育の先生の意識や指導の工夫が大切。

2 子どもの家庭における生活習慣等の改善

「おはよう、おやすみ、おてつだい」約束運動は、県教委の果敢な挑戦であった。

3 地域ぐるみの活動と地域教育力の強化

学校支援地域本部事業では、学校支援に対し、様々な方に一步を踏み出してもらっている。今後も、県教委にはきっかけづくり、場づくりの取組が望まれる。

4 学校教育の基盤整備等

県立教育研究所では満足度の高い講習が実施されるなど、教員の資質向上を目指した取組がなされている。講師塾等、先進的な取組も評価できる。

5 文化財の保存と活用

県内の発掘成果を展示する場合、十分な広報が必要。広報の在り方を考えることで、より広く文化財事業を県民に理解してもらえるのではないかな。

点検・評価報告書は、教育委員会ホームページでご覧いただくことができます。

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-3563.htm

・〒630-8502 奈良市登大路町30 奈良県教育委員会事務局 企画管理室 TEL0742-27-9830（直通）FAX0742-27-2985

・奈良県教育委員会ホームページ http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1691.htm



奈良県教育委員会では、月2回、メールマガジン「E-夢 はっしん！」を配信しています。

皆さんの読者登録をお願いします。 <http://www.pref.nara.jp/kyoikuk/mailmaga/>



毎年11月1日は「奈良県教育の日」 毎月第3日曜日は「家庭教育・家庭の日（いきいきサンデー）」

まなびの支援

「愛を基盤として、知力・体力・忍耐力を身に付けて、
正々堂々と生きる子どもを育てる」ために・・・

2011

家庭教育の充実

		(%)	
質 問		奈良県	全国
家の手伝いをしていると回答した子どもの割合	小学校	79.4(29)	80.2
	中学校	61.8(40)	64.8
寝るのが午後11時より遅いと回答した子どもの割合	小学校	23.1(2)	16.1
	中学校	79.8(1)	67.5
平日、家の人と一緒に夕食を食べていると回答した子どもの割合	小学校	86.0(46)	89.6
	中学校	76.9(46)	82.7

平成22年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

※表中の（ ）内の数字は、本県の全国順位を示す。

子どもの生活習慣の改善

「おはよう・おやすみ・おてつだい」約束運動

家庭における子どもの生活習慣の改善や役割づくりを推進するため、「こども3つのやくそくカレンダー」を活用し、「おはよう・おやすみ・おてつだい」約束運動を実施しています。

この運動を通して、幼児期から望ましい生活習慣を身に付け、規範意識を芽生えさせるとともに、親子のかかわり方を見直してもらい、家庭の教育力の向上を図ります。

※県内すべての幼稚園・保育所の3歳～5歳児の家庭にカレンダーを配布

※平成22年度は20,159人の子どもがカレンダーを提出

※運動実施前後の調査では、保護者が子どもは「お手伝いをしている」と回答した割合が、14ポイント（約2,800人）増加



夏休みノーテレビ・ノーゲームデーチャレンジ

規則正しい生活のリズムや基本的な生活習慣の定着、家族の会話の促進を図るため、県内すべての小学3年生とその保護者に、夏休み期間を利用してノーテレビ・ノーゲームデーにチャレンジしてもらいます。

幼児教育の推進

	奈良県	全国
幼稚園と小学校における教育が接続することは重要であると答えた市町村の割合	100	99
教育課程上の接続のための取組が行われていると答えた市町村の割合	13	20

幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続に関するアンケート（文部科学省）

幼稚園・保育所職員を対象とした研修の開催

新幼稚園教育要領の趣旨を生かした幼稚園教育を推進するため、「幼稚園教育理解推進事業」を実施しています。

また、「保育所・幼稚園職員合同研修会」など、幼稚園と保育所の職員がともに幼児期の教育について研修する機会を設けています。



※平成22年度は、保育所・幼稚園職員を対象とした7回の研修に1,124人が参加

全国平均に比べて、「家の手伝いをしている」「平日に、家の人と一緒に夕食を食べている」子どもの割合が低く、「寝るのが午後11時より遅い」子どもの割合は高い。

次代の親の育成

高校生の「こんにちは赤ちゃん」体験

すべての県立高校において、次代の親となる高校生が、乳幼児とのふれあい体験を行う機会をもっています。自己のもつやさしさの発見や将来の子育てに対する不安の軽減を目指しています。

※平成23年度は、約4,000人が参加予定



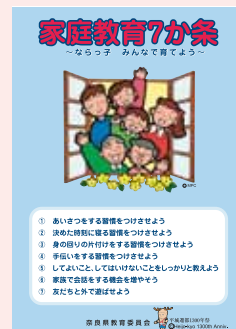
家庭の教育力の向上

家庭教育の啓発

家庭教育で大切にしたいことや保護者は子どもに何を教えればよいのかなどをまとめた家庭教育7か条を配布しています。

また、家庭教育に関する啓発や支援にも取り組んでいます。

※県内すべての小学1年生の保護者にリーフレットを配布



「幼稚園と小学校における教育が接続することは重要である」とすべての市町村が答えているが、教育課程上の接続のための取組を行っている市町村の割合は、全国平均に比べて低い。

幼稚園・保育所と小学校の連携の促進

いわゆる「小1プロブレム」といった、幼児教育と小学校教育の接続に関する課題解決に向けて、「幼児期から小学校への接続期実態調査事業」を実施し、円滑な移行を考えた教育活動に役立てます。



確かな学力の育成

教科に関する調査（抽出対象公立学校の平均正答率）（％）

	国語 A		国語 B		算数・数学 A		算数・数学 B	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
小学校	84.0(13)	83.3	79.0(9)	78.0	74.7(15)	74.2	50.0(13)	49.2
中学校	75.7(18)	75.1	65.0(26)	65.0	66.9(9)	64.7	45.0(11)	43.6

（Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題）
平成22年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

※表中の（ ）内の数字は、本県の全国順位を示す。

質問紙調査

（％）

質 問		奈良県	全国
国語の勉強が好きと回答した子どもの割合	小学校	63.3(17)	62.1
	中学校	52.1(44)	57.2
算数・数学の勉強が好きと回答した子どもの割合	小学校	59.2(45)	63.8
	中学校	49.0(46)	53.3

平成22年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

全国平均に比べて、教科の平均正答率が高いが、勉強が好きと回答した子どもの割合は低い。

学習意欲の向上

確かな学力の育成に係る実践的調査研究

全国学力・学習状況調査の結果等から明らかになった課題改善のため、児童生徒の学習意欲を向上させ、思考力・判断力・表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うための実践研究を進めています。

研究成果を県内の学校に普及するため、学力向上フォーラムを開催し、研究指定校の実践発表や授業改善をテーマにした分科会を行っています。

また、各学校における教育活動の検証・改善を図るため、「奈良県学校改善支援プラン」の活用を進めています。

※平成22年度は、学力向上フォーラムに約200人が参加



新学習指導要領への対応

小学校及び中学校教科等指導資料の活用

小学校では平成23年度から、中学校では平成24年度から新学習指導要領が全面実施されます。各学校での円滑な実施を図るため、小学校及び中学校教科等指導資料を作成し、その活用を進めています。

新学習指導要領の実施に伴う非常勤講師の配置

小学5・6年生では、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うため、外国語活動（英語）が実施されます。

外国語活動を支援するため、英語教育に精通した非常勤講師を配置します。

わくわくまなび フェスタ



子どもの「勉強嫌いの解消」「学習意欲の向上」を目指し、県内の学校関係者、諸団体の多様な教育力を結集して、模擬授業や「親子で工作」等、様々な学びの場の具体例を示す わくわくまなび フェスタを開催します。

キャリア教育の充実

キャリア意識の醸成

中学生キャリア教育の推進

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるため、県内すべての公立中学校で1年生から職場体験等の体験活動を進めています。



平成22年度 公立中学1年生の体験活動の実施状況

職場体験（事業所、社会福祉施設、幼稚園・保育所 他）	45校
ボランティア活動（清掃活動、奉仕活動 他）	95校
ものづくり体験等	67校
講師（ゲストティーチャー）によるキャリア教育に関わる講話	89校

ものづくり人材の育成



社団法人奈良工業会と連携して、県内高校の工業に関する学科の生徒を対象に、企業及び校内で、熟練技能者による実習指導を行っています。

※平成22年度、実習指導を受けた生徒は延べ605人

（％）

質 問		奈良県	全国
将来の夢や目標をもっていると回答した子どもの割合	小学校	87.0(21)	86.8
	中学校	70.5(34)	71.7
人の役に立つ人間になりたいと回答した子どもの割合	小学校	93.5(30)	93.4
	中学校	90.8(41)	92.1

平成22年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した子どもの割合が、中学校では全国平均に比べて低い。

就職支援

新卒者・既卒者に対する支援

県立学校の就職内定率の改善及び県内企業への就職率の向上を図るため、就職サポーターを7校に配置し、就職指導の充実を図っています。

すべての県立学校のホームページに卒業生等就労相談窓口を開設するとともに、就職相談者及び高校中退者を対象に「就活ガイドブック」を配布し、就職を支援しています。



豊かな人間性の育成

質 問		奈良県	全国
新聞やテレビのニュースなどに関心があると回答した子どもの割合	小学校	64.3(36)	66.9
	中学校	58.7(46)	64.2
人の気持ちが分かる人間になりたいと回答した子どもの割合	小学校	91.6(35)	92.0
	中学校	91.7(42)	92.7

平成22年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

全国平均に比べて、「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」「人の気持ちが分かる人間になりたい」と回答した子どもの割合が低い。

道徳教育の充実

各学校の道徳の時間に活用できる、奈良県の自然や伝統文化などを生かして作成したオリジナルの「奈良県郷土資料」をすべての小・中学校に配布しています。

また、奈良県道徳教育フォーラムを開催し、学校・家庭・地域が連携して取り組む道徳教育の在り方について協議しています。

※平成22年度は、奈良県道徳教育フォーラムに約100人が参加



体験活動の充実

高校生社会参画活動の推進

高校生の社会性や自主性を育むため、平成22年度より県内高校生による連絡会を設置し、社会参画活動を実施しています。

平成23年度は全国育樹祭や奈良マラソンなどでボランティア活動を行います。

※平成22年度は、10月を「清掃活動強調月間」とし、58校5,052人が参加



ふれあいフェスタ

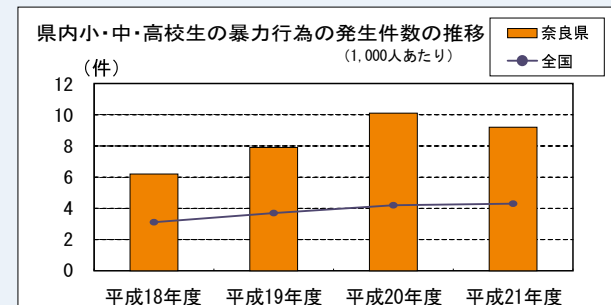
子ども、保護者、地域の人々が、うだ・アニマルパークにおいて、動物とのふれあいや動物に関する学習を通し、命の大切さを実感し、命の尊さについて理解を深めるため、ふれあいフェスタを開催します。



問題行動等への対応

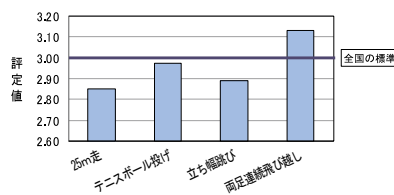
質 問		奈良県	全国
学校の規則を守っていると回答した子どもの割合	小学校	86.4(45)	89.2
	中学校	84.7(46)	90.1
いじめは、どんな理由があってもいけないと回答した子どもの割合	小学校	94.2(43)	95.0
	中学校	89.2(45)	91.1

平成22年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

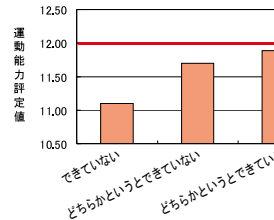


児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）

各種目の評定値平均



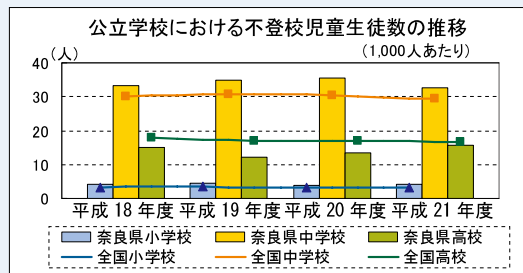
規則正しい生活と運動



平成22年度幼児の運動能力・生活習慣等調査

◎評定値：2008年幼児の運動能力全国調査の結果をもとに作成された運動能力5段階に評定した値で1～5で表される。3は標準的な発達を示す。

◎運動能力評定値：4種目の評定値を合計した値。



児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）

全国平均に比べて、「学校の規則を守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した子どもの割合が低い。

前年に比べて、暴力行為の発生件数は減少した。また、不登校児童生徒数は、公立小・中学校で全国平均を上回っている。

生徒指導支援室の設置

平成23年度から、子どもの規範意識の向上、暴力行為の減少や不登校対策の充実を図るため、生徒指導支援室を設置しました。生徒指導担当の指導主事・教員OBからなる巡回アドバイザーや、教員OB・警察官OBからなる学校支援アドバイザーによる学校への支援を行うなど、生徒指導上の諸課題の改善に取り組んでいます。

規範意識の向上

生徒指導ガイドラインの活用

「子どもの規範意識向上推進委員会」からの提言に基づき作成した、小・中学校と高校用の「生徒指導ガイドライン」を活用し、規範意識の向上や暴力行為等問題行動の減少に向けた取組を進めます。

体力の向上

運動能力に関する調査 (％)

	20mシャトルラン (回)		50m走 (秒)		ボール投げ (m)	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
小学校 (男子)	47.16 (42)	51.29	9.34 (15)	9.38	25.04 (33)	25.26
小学校 (女子)	33.91 (45)	39.65	9.67 (25)	9.65	14.42 (35)	14.58
中学校 (男子)	78.72 (43)	84.49	8.05 (26)	8.04	20.32 (46)	21.23
中学校 (女子)	48.44 (46)	56.45	8.91 (26)	8.90	12.70 (43)	13.29

平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (文部科学省)

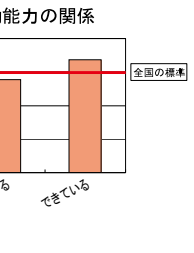
運動習慣の定着

体力向上の促進

子どもの体力向上のための拠点として、添上高校の日本陸連第4種公認陸上競技場を改修整備し、「トップアスリート等による親子トレーニング講習会」を開催します。同校では、小学生や中学生に積極的に陸上競技場を開放するとともに、温水プールを活用して「小学生水泳教室」も開催します。

また、より多くの小学生が参加できるよう「小学生陸上競技記録会」や「学童水泳記録会」の規模を拡大して実施します。

小学校の体力テストには、中・高校の体育科教員が測定を支援します。



奈良県の幼児の運動能力は、全国の標準よりやや低い。生活習慣と運動能力の関係は、規則正しい生活ができている子どもの方が運動能力が高い。

運動能力等の調査・研究

平成23年度は、幼児の運動能力等実態調査のほか、運動場芝生化促進に係る調査・研究や児童生徒の体力向上のための調査・研究を実施します。

学校非公式サイト監視・調査研究

学校非公式サイト、いわゆる学校裏サイト等を検索し、不適切な投稿 (書き込み) の監視・調査・削除等のネットパトロールを実施しています。また、学校が問題のある書き込みなどに適切に対応できるよう、具体的事案に対する助言や資料提供などを行っています。

不登校児童生徒への支援

不登校の子どもたちのための特別教室設置

不登校状態にある子どもたちが通う適応指導教室に、中学生を対象に支援する特別教室を設け、弾力的な教育課程に基づいた学習指導を行っています。子どもたちへの心理的支援と学力の充実を図り、社会的自立を目指します。

※奈良市、大和高田市において、モデル事業として実施

不登校の子どもたちに適切に対応するためのガイドラインの作成

平成22年度に「不登校対策委員会」を設置し、より効果的な取組について議論を深めています。不登校状態にある子どもたちへの支援に加えて、学校で適切に対応できるよう不登校の未然防止や早期対応に関するガイドラインを作成します。

1日に運動やスポーツをどのくらいしているか (％)

	30分未満		30分～1時間		1時間～2時間		2時間以上	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
小学校	18.0 (23)	17.7	24.0 (12)	21.9	25.2 (21)	25.4	32.8 (32)	35.0
中学校	21.6 (7)	18.9	7.5 (15)	6.9	12.5 (42)	19.5	58.4 (19)	54.7

平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (文部科学省)

全国平均に比べて、1日1時間以上運動している子どもの割合は低い。運動能力に関する調査では、小学生・中学生とも、ほとんどの種目で全国平均を下回っている。

運動場芝生化の促進

運動場の芝生化を促進するため、日本スポーツ振興センター助成金を活用して、小学校運動場を芝生化する市町村に補助を行います。

また、「運動場芝生化マニュアル」の活用や実践報告会・パネル展の開催などを通して啓発活動を進めています。

※平成21年度は小学校9校、平成22年度は県立学校5校が芝生化



健康教育の推進

健康課題への対応

子どもの心の健康や生活習慣等の課題に適切に対応するため、医師、保健師等の専門家を学校へ派遣し、保護者、教職員、児童生徒への講演会等を行っています。



※平成22年度は、小学校29校、中学校9校、高校2校、特別支援学校3校などに医師等を派遣

食育の推進

県内すべての学校・園で、それぞれの地域の特性を生かした食育に取り組んでいます。

食に関する指導の充実を図るため、平成22年度は小・中学校を対象としたDVD教材と資料集を作成しました。

※県内すべての小学校、中学校、特別支援学校に配布



チャレンジ運動フェスタ

各小学校では、県教委のホームページ「外遊び、みんなでチャレンジ!」を通して、8の字とびやペーナわとび等に取り組んできました。



その成果を発揮して記録に挑戦したり、親子で達人の技に挑戦したりすることで体力の向上を目指すチャレンジ運動フェスタを開催します。

学校教育の基盤整備

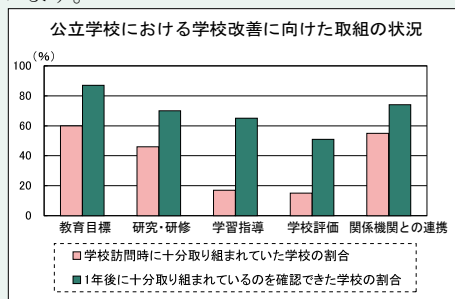
保護者や地域に信頼される学校づくり、特別支援教育の体制整備、教育施設・設備等の整備、教職員の資質向上等を図り、学校教育の基盤を整備します。

保護者や地域に信頼される学校づくり

学校教育アドバイザーチームによる学校訪問

平成18年度から21年度までで、すべての公立学校を訪問し、学校経営等の改善すべき点について指導・助言しました。1年後のフォローアップ訪問で、各学校の努力により改善が進んでいることを確認しています。

また、2巡目となる平成22年度からは、奈良県の教育課題に対する取組状況や改善が進みにくい学校経営の項目を中心に診断を行い、学校改善に向けた支援をしています。

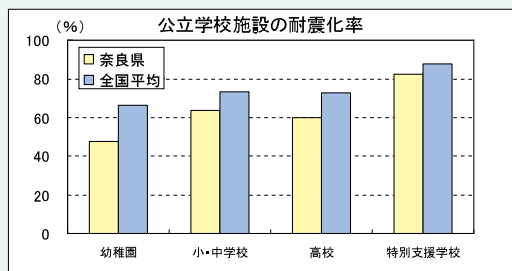


教育施設・設備等の整備

耐震化の推進

県立学校施設は、平成21年度で完了した耐震診断を基に、順次耐震化を進めています。特別支援学校は、平成23年度でおおむね耐震化が完了する予定です。

また、市町村には、特に大規模地震で倒壊等の危険性の高い学校施設について早期に耐震化を実施するよう働きかけています。



平成22年度公立学校施設の耐震改修状況等調査（文部科学省）

県立学校の情報化推進

児童生徒が、情報化社会に主体的に対応できる力を身に付けられるよう、県立学校の情報機器の整備・更新を行い、教科指導におけるICT活用を推進する学習環境の充実を図っています。



※平成22年3月、学校ICT環境整備事業で、県立学校に449台のデジタルテレビ、2,260台のコンピュータを整備するとともに、すべての普通教室へのLAN整備を完了

特別支援教育の体制整備

特別支援教育の推進

特別支援教育を推進するため、就学指導や生徒の卒業後を見通した自立支援の充実を図ります。

平成22年度に作成した「就学指導のガイドライン」を基に、「子どもを中心に据えた相談」を本人・保護者と学校、教育委員会が、願いや目標、課題を共有しながら進めます。

また、特別支援学校に通う生徒の社会参加を目指して、地域ボランティアの協力を得ながら、自力通学を促進します。



教職員の資質向上

教職員研修の充実

学校の組織強化や人材育成を図るために、教職員の経験や職務に応じた研修を実施しています。組織の一員として求められる力を育成するとともに、教育課題への対応や教科等の指導など、教職員としての専門性を

高めるための充実した研修を行っています。

※研修講座受講者数

平成20年度	13,171人
平成21年度	13,503人
平成22年度	13,910人



奈良県ディア・ティーチャー・プログラムの実施

奈良県内の学校の教員を志す大学3年生、大学院1年生を対象に、グループ別の演習や、継続的な学校現場実習を通して、実践的指導力を養成するプログラムを平成20年度から実施しています。若手教員が直接アドバイスをを行う、リクルーター制を導入しています。



※受講者数

第1期	104人
第2期	108人
第3期	111人

「講師塾」の実施

奈良県で任用されている講師を対象に、模擬授業等の演習を通して、実践力（授業力）を高めるプログラムを平成22年度から実施しています。

※平成22年度は、103人が受講